

## 中国国家図書館の発展構想と戦略計画

中国国家図書館 副館長

中国国家図書館は国家の総書庫であり、全国書誌センター、国家古籍保存センターでもあります。国内の文献を網羅的に収集及び保存し、国外の文献を重点的に収集及び保存するという職責を果たし、全国の文献保護事業の指導・調整を行います。また、中央と国家指導機関、社会組織及び公衆のために文献情報やレファレンスサービスを提供します。そして、図書館学理論と図書館事業発展の研究を推進し、全国の図書館事業の指導を行います。対外的には文化交流に関わる機能を果たし、IFLA 及び関連の国際組織に参加し、国内外の図書館との交流及び協力事業を展開します。

### 一、目下の国家図書館の事業発展の現状

近年、中国政府は図書館を含めた文化事業を重要視して強力な支援を与えており、国家図書館はこの発展の好機を確実に捉え、以下のように急速な発展を遂げました。

—国家図書館本館北区庁舎が2008年に落成し、正式に開館して利用者を受け入れました。庁舎の総面積は25万平方メートルまで増加し、世界の国立図書館中第3位に躍り出ました。利用者受け入れ能力は倍増し、閲覧環境は著しく改善しました。

—国家デジタル図書館プロジェクトの主要な構築業務が完了しました。ソフトウェア及びハードウェアのインフラは著しく改善され、デジタル図書館の標準規範体系の基礎を構築し、技術体系は日々進歩し、サービスアーキテクチャーと業務プロセスの基本を形成し、デジタル図書館の技術に基づいた多くの革新的サービスが公衆へ提供されました。

—館が所蔵する文献情報資源の数量は増加を続けています。2011年末までに、所蔵文献の総量は2,994万冊（件）、デジタル資源の総容量は561TBに達し、伝統的な文献資料とデジタル資源が結合した館の所蔵体系の基礎が形成されました。

—サービスのチャンネルは日増しに多元化が進み、来館サービスと遠隔サービスが補完し合うサービスモデル、統合的・総合的な階層別サービス体系を基本的に構築しました。2011年の来館利用者はのべ447万人を超え、文献の流通量はのべ2,577万冊、webサイトへのアクセス数はのべ7.4億人、携帯電話ポータルへのアクセス数は1,483万回、デジタルテレビ放送のユーザーは370万世帯に達しています。公衆のためのサービスと同時に、特

定の利用者層に対するサービスにも力を注ぎました。2008年10月、中国視覚障害者デジタル図書館がオープンしました。また、2010年5月には中国国家図書館少年儿童図書館が開館し、同時に「国家デジタル図書館・子どもデジタル図書館」もオープンしました。

一国家の重点的文化プロジェクトに積極的に参与して積極的に企画立案を行い、中華善本再生プロジェクト<sup>1</sup>、中華古籍保護計画<sup>2</sup>、県級デジタル図書館推進計画<sup>3</sup>、デジタル図書館推進プロジェクト等の事業を次々に実施し、顕著な社会的影響をもたらしました。

一国内外に業務交流と協力関係を展開し、システムや地域を横断する図書館協力体制の基礎を構築し、IFLA/PAC中国センターやIFLA中国語センターを設立し、国内外の図書館界における影響力を向上させました。

これらの事業はみな、「第12次5カ年計画（以下「十二五」という）」期間における国家図書館のさらなる発展のために豊富な経験を蓄積し、強固な基礎を定めました。

## 二、「十二五」期間における国家図書館の戦略・発展構想

2011年から、中国は「国民経済発展第12次5カ年計画<sup>4</sup>」の期間に入りました。中国の経済的・社会的発展及び図書館事業の進歩にともない、国家図書館は依然として重要な発展の好期にあることでしょう。このため、国家図書館は2010年末に「国家図書館『十二五』発展計画綱要（以下「計画」という）」を正式に発表し、2011-2015年の期間における国家図書館の発展のために戦略的な方針を打ち出しました。「計画」により、この期間の国家図書館は以下のような方面に重点を置いて、業務を展開していくことになります。

第1点目は、国家文献資源総庫<sup>5</sup>を建設し、文献情報保障の能力を高めることです。文献資源総庫の建設には各種の文献情報資源の収集・収蔵が必要となることを鑑みて、所蔵文献を年平均80万冊（件）以上、デジタル資源を年平均100TB以上増加させます。

第2点目は、国家文献資源の総合目録を作成し、文献情報資源を統合、表示、発見できるプラットフォームを構築することで、文献表示能力を一層向上させることです。戦略的、歴史的、文化的価値を具えた特色ある文献を選択し、優れたコレクションと利用者の知識ニーズを結び付けて、体系化・特色化された特定主題のナレッジベース群を構築します。

第3点目は、立法・政策決定サービスを強化し、国家の立法・政策決定サービスのための文献情報収集・研究・サービスセンターを設立することです。

第4点目は、国家デジタル図書館推進プロジェクトを実施することです。全国をカバーす

---

<sup>1</sup> 2002年から文化部、財政部が共同で実施したプロジェクト。学術振興のため、国内の唐、宋、元代の稀観書を精選の上、複製し、学術機関に配布した。カレントアウェアネス記事↓

<http://current.ndl.go.jp/node/8885>

<sup>2</sup> 2007年に始動した古典籍保護プロジェクト。[http://www.nlc.gov.cn/newzqwqhg/bhgj\\_ccwm/zw\\_bh/](http://www.nlc.gov.cn/newzqwqhg/bhgj_ccwm/zw_bh/)

<sup>3</sup> 文化部実施のプロジェクト。全国文化共享プロジェクト等のバーチャルプラットフォームを利用し、県級図書館に資料、サービスを提供する。2010年開始。

[http://www.ccnt.gov.cn/xxfb/xwzx/whxw/201002/t20100203\\_76883.html](http://www.ccnt.gov.cn/xxfb/xwzx/whxw/201002/t20100203_76883.html)

<sup>4</sup> 「第12次5カ年計画」の正式な呼称。

<sup>5</sup> [http://www.ccnt.gov.cn/xxfb/xwzx/whxw/201001/t20100125\\_76576.html](http://www.ccnt.gov.cn/xxfb/xwzx/whxw/201001/t20100125_76576.html) 「十二五」期間中の建設を目指している。後述の「专题知识库（主題知識ナレッジベース）」、「国家文献战略储备库（国家文献戦略保存庫）」も同じく「十二五」期間中の建設を目指している。

るデジタル図書館サービスのネットワークを構築し、大規模分散型のデジタルデータベース群を形成し、様々なニーズを満足させる統合メディアサービスのプラットフォームを構築します。

第5点目は、図書館の物理的空間、その他の社会空間、インターネット、モバイル端末等の各種ルートを利用して、社会教育を担う役割をより一層強化することです。展覧会、講座、研修等の豊富で多彩な文化活動を展開して、公衆の多元化した精神文化面でのニーズを満足させます。同時に、第一期補修改修工事を展開し、典籍博物館を設立し、図書館を魅力ある公共の文化の場として築き上げます。

第6点目は、「国家文献戦略保存庫」を設立することです<sup>6</sup>。国家の情報資源の戦略的保存の観点から、国家図書館が所蔵する各種保存用文献の遠隔地における戦略的保存、及び所蔵デジタル資源の災害に備えた遠隔地におけるバックアップについて研究・解決し、国家レベルの文献資源保障センターを設立し、所蔵資源の長期戦略的な保存を実現します。

第7点目は、「中華古籍保護計画」を引き続き推進することです。古典籍の全面的調査を核として、人材育成と科学実験に重点を置き、国家レベルの古典籍修復センター及び中国語文献保存保護研究センターを設立します。同時に中華民国時代（1911-1949年）の文献の保護プロジェクトを展開し、それらの文献に対する脱酸保護と複製利用を進めます。

第8点目は対外協力と交流を強化することです。IFLA等の組織の事業及び活動に積極的に参与し、国際図書館界における二国間及び多国間での業務検討会や交流活動を立ち上げて参与し、実質的な内容のある国際的協力プロジェクトを追求していきます。

### 三、「十二五」期間に国家図書館が展開中あるいは展開予定の重点業務

「計画」に基づき、2011-2012年の期間に、国家図書館はデジタル図書館推進プロジェクト、民国時期文献保護計画、第一期補修改修工事、国家典籍博物館建設などの重点プロジェクトを始動しました。同時に、国家文献戦略保存庫、中国アーカイブなどのプロジェクトを計画準備し、一定の進展を遂げました。

#### （一）第一期補修改修工事と国家典籍博物館建設

国家図書館の本館南区は1987年に正式開館してから、現在まで25年間近くにわたって使用してきました。施設や設備の老朽化は深刻で、従来の機能と空間配置では国家図書館の事業発展のニーズに応じることが難しくなっています。2011年10月、国家財政の支援を得て、国家図書館本館南区の補修改修工事が正式に着工しました。この工事は2011年から2013年の期間に、「機能を完備し、品質を向上させ、元の状態に復旧させる」という原則に基づいて本館南区の補修及び改修を実施します。また、これに加えて部分的な機能調整も行い、既存の基礎業務の環境とサービス空間を改善し、国家図書館が今後新しい業務を展開してサービス品質を向上させるための環境作りを行います。工事の実施に合わせて、

<sup>6</sup> [http://www.nlc.gov.cn/newtsgj/yjdt/2010n/2y\\_2173/201002/t20100201\\_33978.htm](http://www.nlc.gov.cn/newtsgj/yjdt/2010n/2y_2173/201002/t20100201_33978.htm) 国家文献戦略保存庫については後述。

国家図書館は 2011 年のうちに 700 万冊の文献を一時的に館外に移して保管し、1,000 万冊余りの文献を館内移送しました。

特に指摘しておかねばならないのは、第一期補修改修工事において、図書館の社会教育機能が拡張し続けている目下の趨勢に対応し、展示スペースを増設して「国家典籍博物館」を建設することです。早くも 1884 年には、ドイツが専門的な典籍博物館—ドイツ書籍・手稿博物館—を設立しました。近年、イギリスやアメリカなどの国々の国立図書館も次々に館内に専用の展示スペースを設け、所蔵資料の中から自館を代表する貴重書を選びすぐって展示しています。国家典籍博物館は各種の現代的な技術手法を用いて、国家図書館の貴重な所蔵資料を展示、展覧、宣伝し、中華の典籍文化が悠久の歴史を持ち、豊かで深いことを全世界に向けて大いに示します。2012 年 7 月、国家関係機関の回答を経て、国家図書館は「国家典籍博物館」の機能も担うことになりました。

## (二) デジタル図書館推進プロジェクト

中国は、1995 年から国際的なデジタル図書館の発展をフォローしており、2005 年に国家図書館が国家デジタル図書館の構築を開始したのに続き、各地域や業界も次々とデジタル図書館の構築を開始しました。すでに、国家レベルのデジタル図書館、各業界のデジタル図書館及び各地域のデジタル図書館によって構成されるデジタル図書館構築及びサービスの体系が形成されています。国家デジタル図書館プロジェクトの成果を広め、全国のデジタル図書館をカバーするサービスネットワークを構築するため、2011 年 5 月、中国財政部と文化部が共同でデジタル図書館推進プロジェクトを始動しました。このプロジェクトは国家図書館がとりまとめて実施し、全国の省レベル及び市レベルの図書館が共同で参加して進めています。

デジタル図書館推進プロジェクトは、国家デジタル図書館を中心に、各種のデジタル図書館を中継点として構築し、全国のデジタル図書館をカバーするバーチャルネットワークを構築し、多層分散型のデジタル図書館データベース群を構築し、優秀中華文化展示プラットフォーム、開放式の情報サービスプラットフォーム及び国際文化交流プラットフォームを構築し、有効なデジタル資源の保障体系を全国規模で形成します。また、電気通信ネットワーク、ラジオ・テレビネットワーク、インターネットをチャンネルに、携帯電話、デジタルテレビ、モバイルテレビなどの新しいメディアをインターフェースとして、多層的で、多様で、専門的なデジタル図書館サービスを大衆に提供し、全国の公共図書館の情報保障レベルと情報サービス能力を全体的に向上させ、図書館の新しいサービス形態を形成します。

2011 年末までに、デジタル図書館推進プロジェクトはすでに中国国内の多くの地区で相次いで始動し、プロジェクトの各方面で実質的な進展を遂げており、また、社会の各方面から広く注目を集めています。

### (三) 民国時期(1911-1949年)文献保護計画

長らく、国家図書館は伝統文化資源の保護業務を重視し、中華古籍保護計画や中華善本再生プロジェクトなどの一連のプロジェクトを策定・実施し、全国の図書館や関連する文献所蔵機関と連携することを通じて、優れた伝統文化資源の有効な保護対策、発掘と利用のために多くの業務を行ってきました。2011年、国家図書館は中華古籍保護計画を引き続き実施することに加え、中華の優れた文化資源の保護範囲を拡大して、「民国時期文献保護計画」プロジェクトを策定・実施します。

中華民国時代(1911-1949年)の文献は高い史料価値と重大な現実的意義を具えています。しかしながら、これらの文献は酸性度が高い紙を使用しており、保管環境も古典籍資料に比べるとはるかに劣ります。そのため、すでに劣化や破損がいたるところで生じています。国家図書館は、中華民国時代の文献を最も多くまた幅広く所蔵している機関の1つです。中華民国時代の文献に緊急的な措置を行って保護し、またこれらの文献の研究と利用を強化するため、我々は「中華古籍保護計画」を遂行した経験を参考に、「民国時期文献保護計画」を策定する上での業務方針を提議しました。このプロジェクトは、中華民国時代の文献の全面的な調査業務を全国規模で組織的に展開し、文献保護業務の協力体制を確立し、全面的かつ科学的で基準に則した保護業務を展開し、保護業務体系を徐々に完備し、中華民国時代の文献の整理、出版、研究利用と広報を推進します。このプロジェクトの推進力を強化するために、2011年9月、国家図書館は「民国時期文献保護業務室」を特別に設置しました。ここでは、民国時期文献保護計画の計画準備とプロジェクト確立のための業務を専属的に担っています。

### (四) その他の策定準備中の新プロジェクト

#### 1. 国家文献資源戦略保存庫建設プロジェクト

文献資源は国家の重要な戦略資源です。しかし、文献は極めて脆弱かつ破損しやすいものです。地震、台風、水害、火災などの自然災害やコンピューターウィルス、システム障害、人為的な破損などの予測しがたい事故は、補修することが困難な破損を引き起こす可能性があります。中国は世界的にも自然災害が頻繁に発生し、災害の種類も多様な国の1つであるため、文献情報資源の安全性が直面している状況は極めて厳しいものです。このため、国家図書館は2011年に「国家文献戦略保存庫」プロジェクトを策定し、国家の重要な文献情報資源について戦略的な保存と遠隔地におけるバックアップを行い、中華文化メディアの長期的で安全な保存を保障します。

#### 2. 「中国アーカイブ」プロジェクト

2011年3月、国家図書館は、国外の図書館や関係機関が展開するアーカイブ類のプロジェクトをフォロー・研究した結果を基礎として、「中国アーカイブ」プロジェクトを策定、実施する方針を提議しました。このプロジェクトの主旨は、国家と民族の発展における重要な事件や人物をカバーして、特定テーマのアーカイブ資源を構築すること、そして、文

献の調査から始め、図書館の所蔵文献に依拠して、全方位的な歴史アーカイブコレクションを構築することです。国家図書館が打ち立てた国家レベルの「アーカイブ」の他に、各地区、各業界でもそれぞれの「アーカイブ」を構築することができ、最終的には全国的な一大中国アーカイブデータベースを構築します。このプロジェクトは、図書館が発展の余地を広げるために有用なプラットフォームを提供し、図書館の伝統的な所蔵資料を補足するものです。また、所蔵資料を発掘し、図書館の貴重な文献や典籍を社会、そして現代において更に役立たせるようにするものです。